

2026年度 日本工学院八王子専門学校											
建築学科											
卒業制作 1											
対象	4年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	60	単位	2
担当教員	根本 毅			実務 経験	有	職種	建築設計				
授業概要											
都市における問題点を把握し、建築的に解決する方法を探ります。											
到達目標											
自ら卒業制作のテーマと敷地（または対象）を設定し、調査・研究・スタディを繰り返すことで、問題意識とコンセプトを明確化し、卒業制作 2 での本格的な計画・制作へとつながる設計の土台をつくる。											
授業方法											
レクチャー、作品・事例紹介、現地調査、ディスカッションを行いながら各自が調査・分析・スタディを進めるスタジオ形式とし、個別指導と中間講評を通してテーマを深め、卒業制作 2 への方向性を固める。											
成績評価方法											
調査・研究の内容とまとめ30%、コンセプトおよびスタディの深さ40%、取り組み姿勢・プロセス20%、出席10%を目安に総合評価し、課題未提出や欠席が多い場合は卒業制作 2 へ進級できない場合がある。											
履修上の注意											
卒業制作 2 での作品制作の前提となる重要科目であり、指示待ちではなく自ら調べ・考え・試す姿勢が求められ、現地調査や資料購入・印刷費なども見込みながら計画的に時間とコストを管理して取り組む。											
教科書教材											
特定の教科書は定めず、過去の卒業制作作品、建築雑誌・作品集・論文・行政資料・統計データ、見学先建物の資料やインターネット情報などを各自のテーマに応じて収集し、教員配布のガイド資料も活用する。											
回数	授業計画										
第1回	ガイダンスとして卒業制作 1・2 全体の流れと評価方法を説明し、過去の卒業制作事例を見ながら自分が取り組みたい社会的テーマや建築的関心を整理して、卒業制作の大まかな方向性を考える。										
第2回	自分の関心領域を「場所・人・活動・時間」などの切り口で掘り下げるワークを行い、関連しそうなキーワードや事例を調べながら、複数の卒業制作テーマ案を文章とスケッチで書き出して比較検討する。										
第3回	テーマ候補ごとに「なぜそのテーマか」「どんな課題があるか」を言語化し、教員との個別面談や全体ディスカッションを通して、卒業制作で扱う主題と研究・設計の問いをより明確な形に絞り込む。										

建築学科

卒業制作 1

第4回	敷地候補または対象建物の候補を複数挙げ、地図・航空写真・都市計画情報などの資料調査を行いながら、それぞれの特徴や可能性を整理して、自分のテーマと結びつきの強い候補を検討する。
第5回	現地調査計画を立てて敷地・周辺環境・利用状況などを実際に観察し、写真撮影や寸法メモ、スケッチなどで一次情報を収集し、その場で感じた違和感や魅力を簡単なレポートにまとめる。
第6回	現地調査の報告会として各自が撮影写真やスケッチを共有し、場所の問題点・可能性・印象的な場面を整理しながら、「この場所でどのような価値を生む建築が考えられるか」をディスカッションする。
第7回	参考事例調査として国内外の建築作品やプロジェクトを各自のテーマに沿って調べ、平面・断面・写真・コンセプト文を読み解きながら、自分の卒業制作に生かせそうな手法や視点をまとめる。
第8回	調査結果と事例研究をもとに、クライアント像・ユーザー像・用途・必要機能などの建築計画条件を整理し、関係図やコンセプトワード、簡単なゾーニングスケッチを用いて、計画の骨格を描き始める。
第9回	ボリュームスタディと空間イメージの初期検討として、配置と高さ・ボリュームのパターンをスタディ模型やスケッチで複数試し、光・風・視線・周辺との関係を意識しながら案の方向性を探る。
第10回	中間発表に向けて、テーマ・敷地・調査のまとめ・事例研究・計画条件・ボリュームスタディなどをA3～A2程度のパネルに整理し、卒業制作2へつながるコンセプトの“たね”をわかりやすく構成する。
第11回	中間発表として各自がこれまでの調査・研究・スタディの成果と現時点のコンセプト・計画の方向性をプレゼンし、教員とクラスメイトからの講評を通して、強みと課題、今後深めるべき点を明確にする。
第12回	中間講評を受けてテーマの焦点やスケールを調整し、平面・断面の検討や空間シーンのスケッチを追加しながら、自分が本当に扱いたい核となる問いと建築的な答え方を再度整理し直す。
第13回	卒業制作2への橋渡しとして、卒業制作2で取り組むべき図面・模型・表現のイメージを考え、必要な作業量やスケジュールを逆算しながら、次年度の制作計画（ざっくりした工程表）を作成する。
第14回	調査・研究・スタディの全体をA3数枚程度のレポートまたは小冊子としてまとめ、テーマ背景・敷地分析・事例研究・コンセプト・計画の方向性・今後の課題などを文章と図版で整理して提出用に仕上げる。
第15回	授業全体の振り返りとして卒業制作1で得た気付きと自分の変化をレポートにまとめ、卒業制作2で実現したい建築像や、図面・模型・表現の方針を簡単なスケッチとともに整理して、次年度のスタート準備を整える。